



ソフトバンクグループ株式会社

2025年3月期 第1四半期 決算説明会

2024年8月7日

免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）及びその子会社（以下 SBG と併せて「当社」）並びに関連会社（以下当社と併せて「当社グループ」）に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績を保証するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBG の重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SB ファンド（下記で別途定義）並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBG のホームページの「事業等のリスク」

(https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor) をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依拠してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測若しくは予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業（SB ファンドの投資先を含みますが、これに限られません。）に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBG の普通株式の取引、スポンサーなし ADR（米国預託証券）に関する免責事項

SBG の普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBG の開示は、スポンサーなし ADR（以下「ADR」）の取引の促進を意図するものではなく、ADR の取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBG は、SBG の普通株式に関するスポンサーなし ADR プログラムの設定又はそれに基づき発行される ADR の発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBG は、ADR 保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBG が 1934 年米国証券取引所法（以下「証券取引所法」）で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBG のホームページに、SBG が証券取引所法ルール 12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づく SBG の普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG 及び当社グループは、SBG の普通株式を表象するスポンサーなし ADR に関連して、ADR 保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社や LINE ヤフー株式会社などの、スポンサーなし ADR プログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又は SB Global Advisers Limited（以下「SBGA」）、SB Investment Advisers (UK) Limited（以下「SBIA」）及びそれらの関係会社を含む SBG の子会社（以下併せて「SB ファンド運用会社」）により運用されるいずれかのファンド（文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファン

ド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて「SB ファンド」) のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有
限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を
避けるために付言すると、SB ファンドは、他のファンド同様、SBIA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund
L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併
せて以下「ビジョン・ファンド 1」)、SBGA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund II-2 L.P. (文脈に応じ
て、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ビジョ
ン・ファンド 2」) 及び SBGA とその関係会社によって運用されている SBLA Latin America Fund LLC (文脈に応じて、あらゆるパラ
レル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファン
ド」) を含みます。

SB ファンド (ビジョン・ファンド 1 及びビジョン・ファンド 2 並びにラテンアメリカ・ファンドを含む)、SB ファンド運用会社、SB
ファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG 又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報
の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるにもかかわらずこれを表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されて
いるパフォーマンスに関する情報は SB ファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又は SB ファンド
運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠しては
なりません。

SB ファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連
する SB ファンド、本資料に言及されるその他のファンド又は SB ファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォー
マンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SB ファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲に
おいて、関連する SB ファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の
投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SB ファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性が
あり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。
本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連する SB ファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料
において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載される SB ファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額
は、関連する SB ファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因 (例えば、評価日現在に
おける類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。) に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料
に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。
また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に
変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連する SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつか要因があ
る中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、
これらの要因は全て、関連する SB ファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SB ファンド又は SB ファンド運用会社により運用される
将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各 SB ファンド又
は関連する SB ファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという
保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業
又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SB ファンド運用会社、SB ファンドのポートフォリオ会社、SB ファ
ンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又は SBG が、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事
業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA 及び SBIA は、ビジョン・ファンド 1、ビジョン・ファンド 2 及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互に SBG からそ
れぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA 又は SBIA によって運用される SB ファンドは、それぞれ SBGA 単独又は
SBIA 単独で運用されています。

[登壇者]

取締役 専務執行役員 CFO 兼 CISO
常務執行役員 経理統括

SB Investment Advisers Limited &
SB Global Advisers CFO

Arm Executive Vice President and CFO

後藤 芳光 (以下、後藤)

君和田 和子

ナブニート・ゴビル

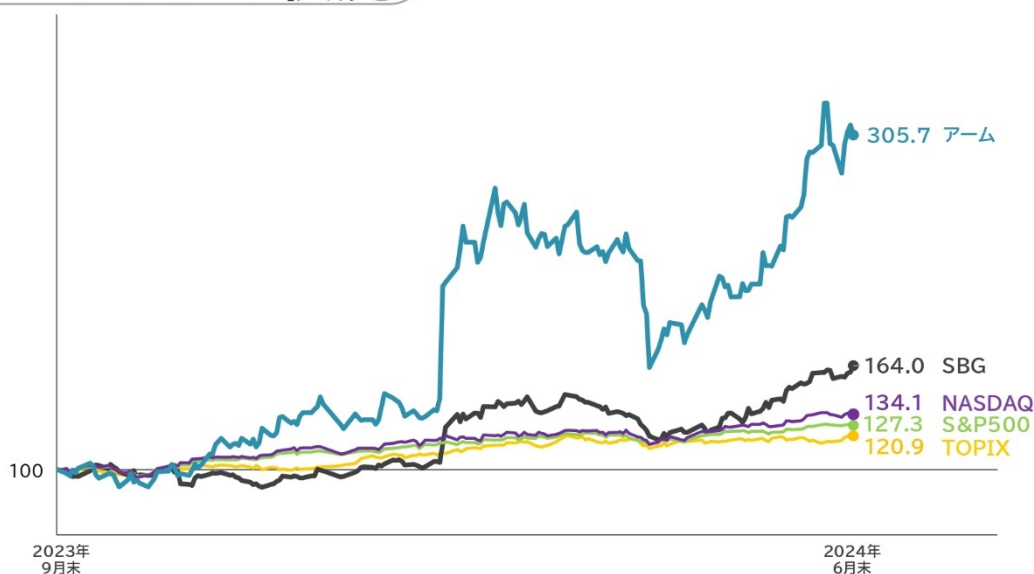
ジェイソン・チャイルド

登壇

司会： それでは、後藤より、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）の連結決算概要および事業概要につきましてご説明申し上げます。

後藤： 第1四半期の決算説明を始めます。第1四半期ですので、6月末までのマーケットの様子を描くところなるわけです。

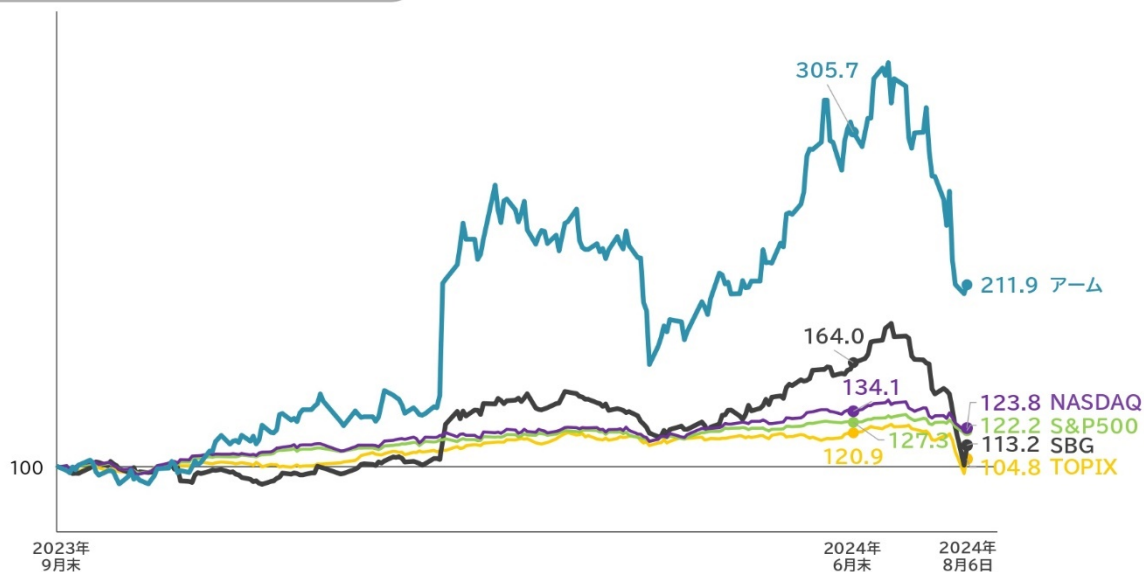
マーケットの状況



マーケットの状況: 各インデックスおよび銘柄の2023年9月末数値を100として指数化。Bloombergを基に当社作成

ところがこの後、だいぶ動きました。

マーケットの状況



マーケットの状況: 各インデックスおよび銘柄の2023年9月末数値を100として指数化。Bloombergを基に当社作成

4

表の読み方としては、左端が去年の9月、ARMが上場した時を起点にARMの株価、SBGの株価、それとS&PやTOPIXなど、いくつかの指標を並べてみました。

ご存じのとおり、一昨日はブラックマンデー以降、日経平均の最大の下げ幅で、逆に昨日は最大の上げ幅です。ブラックマンデーは1987年の10月20日。私は1987年に大学を卒業しまして、4月から当時の安田信託銀行にお世話になりました。そのときを体感した生き残り証人みたいなもので、恐らく今日ここにお集まりの方でも、そのときビジネスの現場にいた方は多分ほとんどいらっしやらないのかなと。

メディアの方も、若い方がこの3日間の様子を目にすると、ああいうヘッドラインになるのだと思うのです。ただ、僕のような生き証人的には少し違った見方もあって。この40年弱、マーケットの仕組みだったり、マーケット等で取引される商品だったり、決済のスピードだったりボリュームだったり、あらゆるものが強烈に進化しているわけです。技術革新とともにすごく進化して、金融工学も進化した。そうすると、実は下げ幅の数字だけであまりびっくりしてもいけないのかなと個人的には思っています。

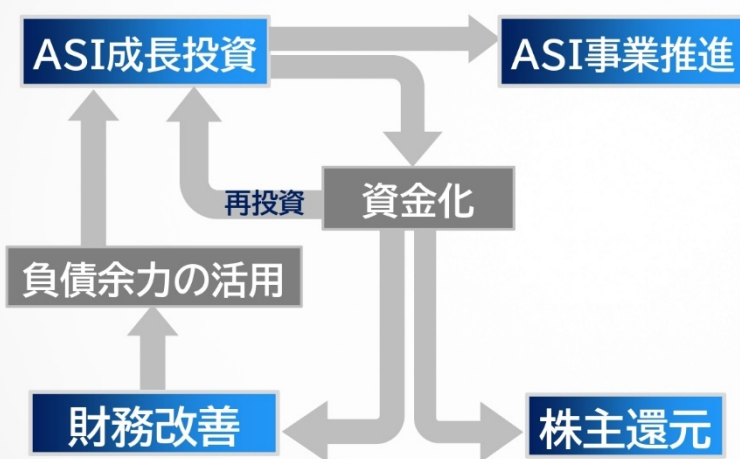
なぜ下がったのかという環境理解を冷静にしていくべきだと思いますし、それを元に、一昨日の下落や昨日の上昇のように、これからもしばらく神経質な動きが続くのかなと思います。その環境下で企業というのはどういう構えが必要かということが、それぞれの企業に問われていることだろうと思います。

戦略的投資会社の事業モデルとリスク管理

あらゆる環境変化に適応

事業モデル: 資本循環を通じた事業とアセットの成長

リスク管理



財務方針の堅持

- ①LTV25%未満で運用
- ②2年分の社債償還資金を保持
- ③継続的な配当収入を確保

- 市場環境に合わせ資金の流れを柔軟にコントロール
- 財務方針を堅持しながら戦略的な資本配分が可能

5

では、SBGはどうかということですが、私たちの事業モデルというのは非常にユニークだと思うのです。われわれは戦略的投資会社であると同時に、さまざまな事業機会を、将来、来るべきAIの時代に向けたさまざまなチャレンジをしていきたい。それは投資と、自ら事業に乗り込んでいく両面で見えていく企業グループだとわれわれは思っています。

私たちのビジネスモデルそのものは、まず豊富なアセットがあります。そのアセットは基本的に、先日の株主総会でも孫（孫正義代表取締役会長兼社長執行役員）が申し上げたような、ASIというAIの新しいステージでどのように活躍できるか、われわれのグループのポートフォリオの構成、新たな技術力やビジネスモデルを持っている、AIを駆使したさまざまな新しいアイデアを持っている企業群をどんどんグループに取り込んでいき、自ら育てていく。物によってはスクラッチから自分で育てていく、そういうチャレンジも多岐にわたって、今、さまざまにやっています。

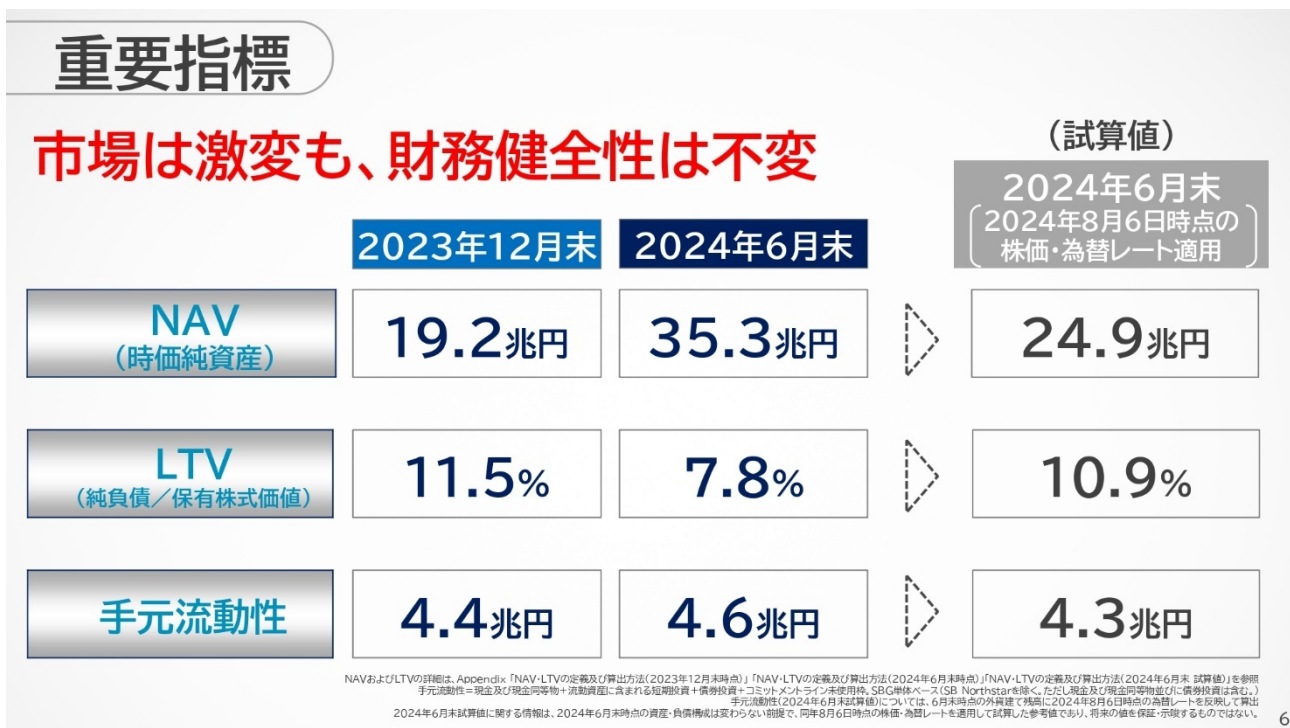
こういったものは資金化をしながら、アセットもビジネスも成長させながら、一方でキャピタルアロケーションとしては新規事業と株主還元、それらを実現する前提としての非常に健康的で強い財務体質。これは財務改善を常に繰り返していく。結果的に財務改善していったバランスシートは、負債調達余力が生まれます。

こうしたものは、投資と回収のタイムラグのブリッジにも使えるし、また、さらに大きなチャレンジへのレバレッジにも使えるということですが、大事なことは、いろいろなオンとオフです。アクセルとブレーキ。これは私たち経営の手で完全にコントロールできるビジネスモデルであるということです。

すごく分かりやすく言ってしまうと、投資をすればお金がかかります。投資しなければお金はかからない。投資のストップを、われわれができるかという判断。新規事業に関して、われわれがどこまで、どのように自分のバランスシートを活用できるのか。私たちのクレジットと、それからこ

の事業に共感いただく市場の多くの投資家の方々とタッグを組んだ調達の可能性、いろいろなものを経験値として持っています。

すべてを私たちがコントロールできるということが非常に大事なことで、あらゆる環境変化に適応できるビジネスモデルだということを、私たちの会社への理解として皆さまにあらためてお願いしたい点です。



6 ページの指標を今一度ご覧ください。Net Asset Value (以下「NAV」)、時価純資産は、マーケットの状況によって当然上がりもし、下がりもする。2023 年 12 月末には私たちの NAV は 19 兆円強でしたけれども、半年間で 35 兆円と倍近くまで成長しています。

この数週間で起きている出来事というのは、NAV が 25 兆円まで下落している。こういった意味では、数カ月で資産の評価が 10 兆円単位で変化しているというのは大変大きな変動です。私たちのバランスシートの分かりやすい安全性として、Loan to Value (以下「LTV」) はどうなっているか。これは実は、今の時点でも 10.9%と、極めて極めて安全なレベルです。

例えば 6 月末から現在までの間に起きている 10 兆円の NAV の縮小においても、安全性についてはマテリアルになっていない。また、手元流動性はもちろん使わなければいだけですが、4.6 兆円が 4.3 兆円と為替の評価で減っています。

いずれにしても、財務の健全性は不変です。今後も市場が大きく動いていく可能性が十分にあります。上にも動くし下にも動く。決算発表の都度、皆さまに申し上げていることは、私たちの短期的な株価の変動に対しては一喜一憂しません。重要なことは、私たちの進むべき投資モデル、ビジネスモデルにグループがぶれなくそのベクトルの方向に向かってスクラムを組んでいくこと、これが一番大事なことだと考えています。



盤石の財務健全性を維持しながら ASI実現に邁進

今一度、私たちのバランスシートの健全性、こういったものを皆さまに十二分にご理解いただきたい。盤石な財務の健全性をベースに、私たちはASIの実現に邁進してまいりたい。この石垣のような盤石な安全性をこれからもまず前提として、私たち現場レベルでしっかり組み立てていく。そして、ASIの実現。当然リーダーは孫であり、孫とわれわれのチームで、このASI実現のための可能性を今360度追求している状況です。

2024年度Q1ハイライト

- 1 純損失は1,743億円となるも、5,597億円の投資利益を計上
- 2 NAVは最高値を更新
- 3 SBGの使命はASIの実現。そのためのAI投資戦略を推進
- 4 アームの業績は引き続き順調
- 5 SVFのパフォーマンスはプラスに転換
- 6 低いLTV、潤沢な現金を維持。AI投資に備えた財務余力を確保

さて、この第1四半期のハイライトです。純損失は1,743億円一方で、投資利益は5,597億円です。6月末時点で見ると、NAVは過去最高値を更新しました。私たちは引き続き、ASIの実現のためのAI投資戦略を推進していきたいと思っています。

その4番バッターはアームです。アームの業績は、引き続き極めて順調かつ堅調です。また、従前からソフトバンク・ビジョン・ファンド（以下「SVF」）の運営を継続していますが、パフォーマンスもプラスに転換してきています。

いろいろありますけれども、LTVは現金の残高等、しっかりした財務ポリシーを遵守しつつ、投資、その他さまざまなキャピタルアロケーションに対応できる財務余力を確保しているという状況です。

連結業績

(億円)	2023年度 Q1	2024年度 Q1	増減額
売上高	15,575	17,017	+1,442
投資損益	-6,990	5,597	+12,587
税引前利益	-1,762	2,257	+4,019
純利益	-4,776	-1,743	+3,033

純利益：親会社の所有者に帰属する純利益 10

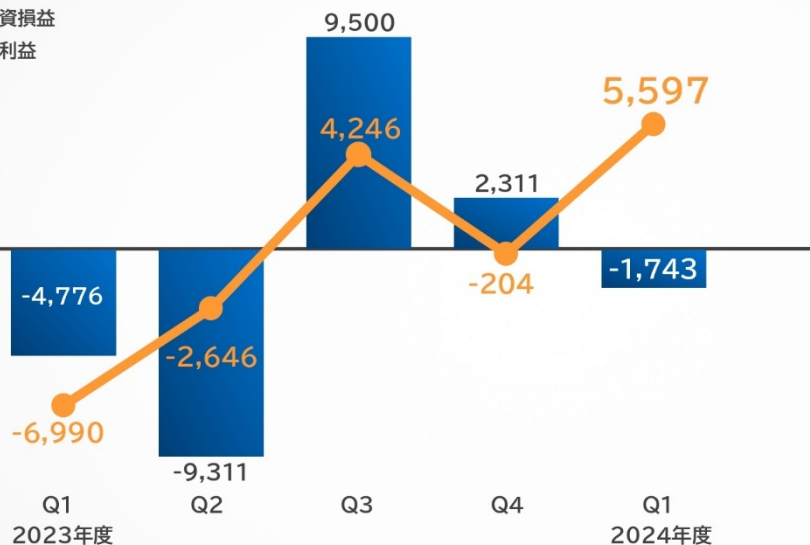
連結業績の各項目ですが、前年同期と比較して、すべての項目でポジティブです。純利益もマイナス1,740億円という着地ですが、前年同期対比プラス3,000億円で、今期の特徴として主に為替の影響が大きいとは言えると思います。

ポジティブな面としては、投資損益で約5,500億円の黒字を確保できました。前年同期対比で1兆2,000億円強のプラスです。

投資損益および純利益 (四半期推移)

(億円)

● 投資損益
■ 純利益



投資損益
黒字転換

純利益: 親会社の所有者に帰属する純利益

11

投資損益と純利益を見ていただくと、われわれの連結投資損益はオレンジ色の折れ線グラフで、着実に右肩上がりで成長し続けている。純利益はぶれます。純利益ですからさまざまな要因があります。特に純利益がマイナスの一方で投資損益がプラスと、この第1四半期は一番乖離があるわけですが、この乖離がどこから生まれているかという、やはり為替は大きいと思います。

投資損益 (四半期推移)

(億円)

■ 持株会社投資事業
■ SVF事業
■ その他
● 連結



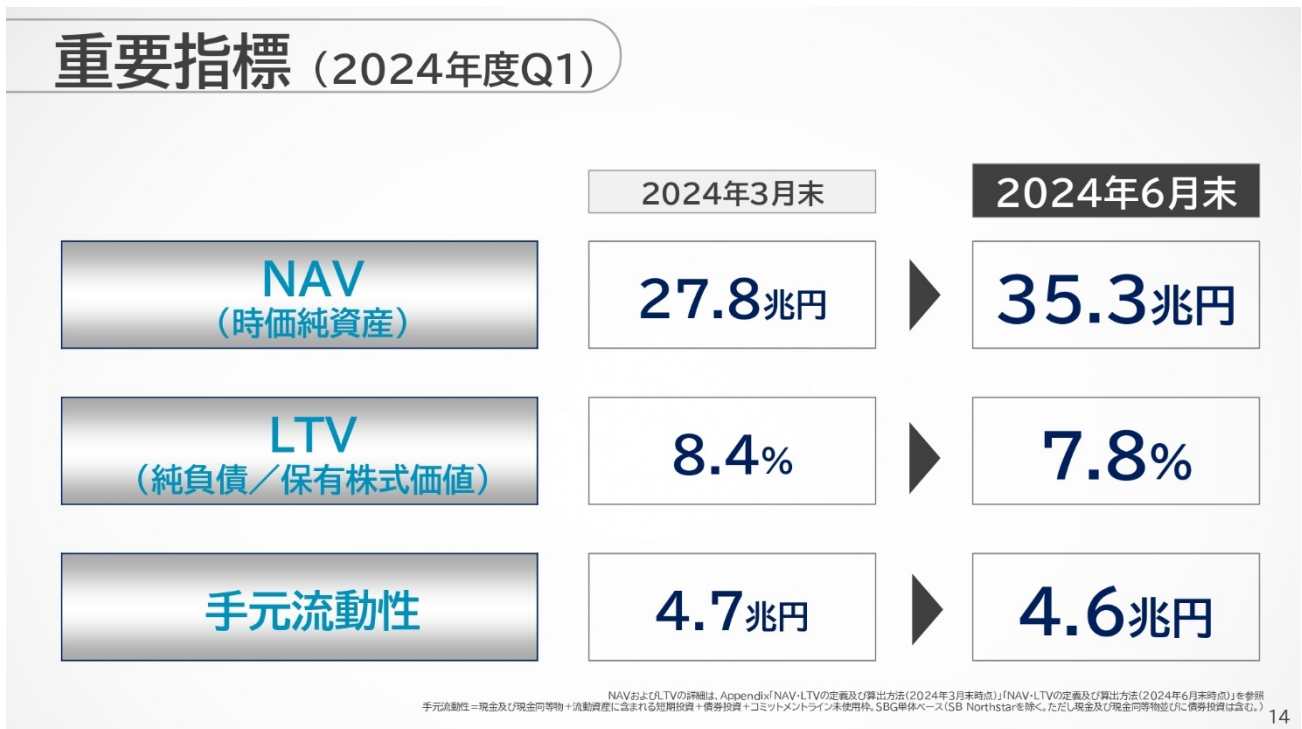
持株会社投資事業
SVF事業ともに
利益を計上

SVF事業: ソフトバンク・ビジョン・ファンド事業

12

投資損益を少しブレイクダウンしますと、どこの投資から利益が出ているか。自己勘定としての持株会社投資の部分と、SVFの部分、両方ともポジティブになってきたということです。これも過去

はどちらかがプラスだとどちらかがマイナスという期が続いていましたが、この第1四半期は足並みがそろったということです。



さて、重要指標です。

NAVとLTV、手元流動性です。6月末は、NAVは非常に潤沢で35兆円。先ほど申し上げたとおり、足元は10兆円ほど減って25兆円くらいですが、今後の市場を見守っていきたいと思います。

また、LTVは極めて安全なレベルです。前回の決算で申し上げましたが、10%を切っているのは、これは投資会社であれば仕事をしていないということと同義というレベルだと思います。また、手元流動性は変わらず、4.6兆円という安全なレベルです。

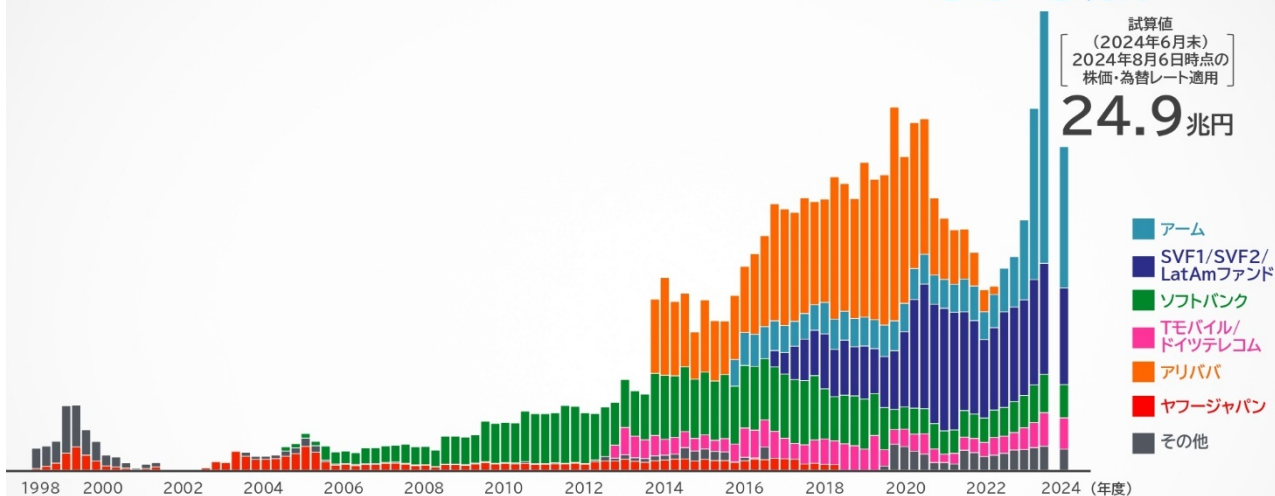
NAVの歴史(1998年度～)

(2024年6月末)

35.3兆円

試算値
(2024年6月末)
2024年8月6日時点の
株価・為替レート適用

24.9兆円



NAVの経緯は、各四半期決算説明会プレゼンテーション資料に記載の「NAV-ITVの定義及び算出方法」を参照
2024年6月末試算値：2024年6月末時点の資産・負債構成は変わらない前提で、同年8月6日時点の株価・為替レートを用いて試算した参考値
NAVに関する情報は、推移のイメージを説明する目的で提供される参考値であり、将来のNAVを保証・示唆するものではない。

15

NAVについては、足元が10兆円減ったというのはどういうことか、もうちょっとひも解いて見ていく必要があると思います。先ほど、私が新入行員として入社したのが1987年だと申し上げました。卒業した大学での専攻は歴史学でして、なぜ、金融の世界に行ったのだろうと、大学の頃は本当にいい加減な学生だったなと今思います。歴史学はちゃんと一生懸命勉強していたのですが。歴史に学ぶのはすごく、私にとってはテーマです。

この40年弱のNAVの歴史、この表に出ているのは2000年前後からですが、2000年前後に何があったかということです。ドットコムバブルという時代を皆さまも覚えていると思います。この表で一番左のこんもりした山です。あのときでも、このこんもりした山と谷がすごく大きかった、そういうふうに皆さまお感じになっていたと思います。

今、同じような上げ下げがあるわけですが、2000年前後と今の状況で、僕が非常に似ていると思うのは、何か評価が上積みされていきながら、ふわっとそれが落ちていく。その過程は何だったのだろうと思うと、例えば2000年のときはインターネットにはがどのぐらいの破壊力があって、どのぐらいの経済と市場の発展性、どのぐらいの世の中の資産の積み増しができるのか、皆がいろいろ将来のアップサイドを積み上げながら評価をしていた。それが買いの力につながって、まず一時的にすっと伸びた。

けれども、それがなかなか数字で表れないと思うと、いったんこれが引くわけです。今のAIに対する市場の見方や投資家の皆さまの考え方もやはり、僕は同じようなレベル、同じような角度から見ておられるのではないかなと思います。

その背景にある一番重要なポイントは、当社の考え方のベースにもありますが、技術の不可逆性というテーマ。私はここでも何度か申し上げました。人間が技術を発展させていく、発展した技術というのはそこから逆進することは絶対にないのです。それは、新たなサービスの創出、新たな付加

価値の創出にも間違いなくつながるのです。それがどのくらい時間がかかるかは分かりません。でも、これはつながるのです。

私たちが今立っている時点はこの一番右です。これだけ見ると、上げも下げも大きいと思いますが、20年後、2024年を一番左に置いてみたら、多分また同じような図になっている可能性もあるのではないかなと思います。

さきほど私の金融の歴史と申し上げましたが、ブラックマンデーから始まる、非常にタフな20年間も経験しましたし、リーマン・ショックも経験しました。ブラックマンデー、日本の3業種不況、リーマン・ショックによるクレジット、これは理由が明快ですよね。本来あるべき評価が正しい評価ではなくて、その評価をあれこれ考えながら、無理やり、無理くり評価を作り上げていった結果が、実はブラックマンデーであり、リーマン・ショックだと、私は思います。

その二つのイベントに比べると、2000年のドットコムバブルというイベントと、今、皆さまが史上最大の下げと上げを経験している現状というのは、状況としては悪くない。そのような市場関係の中での動きだと。

やはりもう一度ブラックマンデーに立ち返ると、あの頃の証券取引は、証券取引所で場立ちを使って取引する時代だったわけです。自分も年を取ったなと思います。今、まったくそんな時代ではないわけです。

ですから市場の動きというのは、さまざまな要因から短期間でより大きく動く時代です。そういったことも頭に入れながら市場を理解していくのが大事なかなと思います。

為替影響 (2024年度Q1)

円安はNAVと資本にプラスの影響

(2024年3月末) (2024年6月末) (2024年8月6日)
1米ドル = 151.41円 → 161.07円 → 144.98円

NAVへの影響

+2.1兆円

会計への影響

資本

+1.1兆円

連結純利益

-0.4兆円

NAVの詳細は、Appendix「NAV-LTVの定義及び算出方法(2024年6月末時点)」を参照
NAVへの影響: 2024年6月末時点の現地通貨建ての保有株式価値、有利子負債および手元流動性について比較対象時点の高額レートで円換算したときのNAVとの差額。ただし、SVF1-2-LatAmファンド・SBN(米ドル建て)をみなして計算
会計への影響: 2024年度Q1の連結損益計算書の為替差損益および連結財政状態計算書のその他の包括利益累計額に含まれる在外営業活動体の為替換算差額の増減額

16

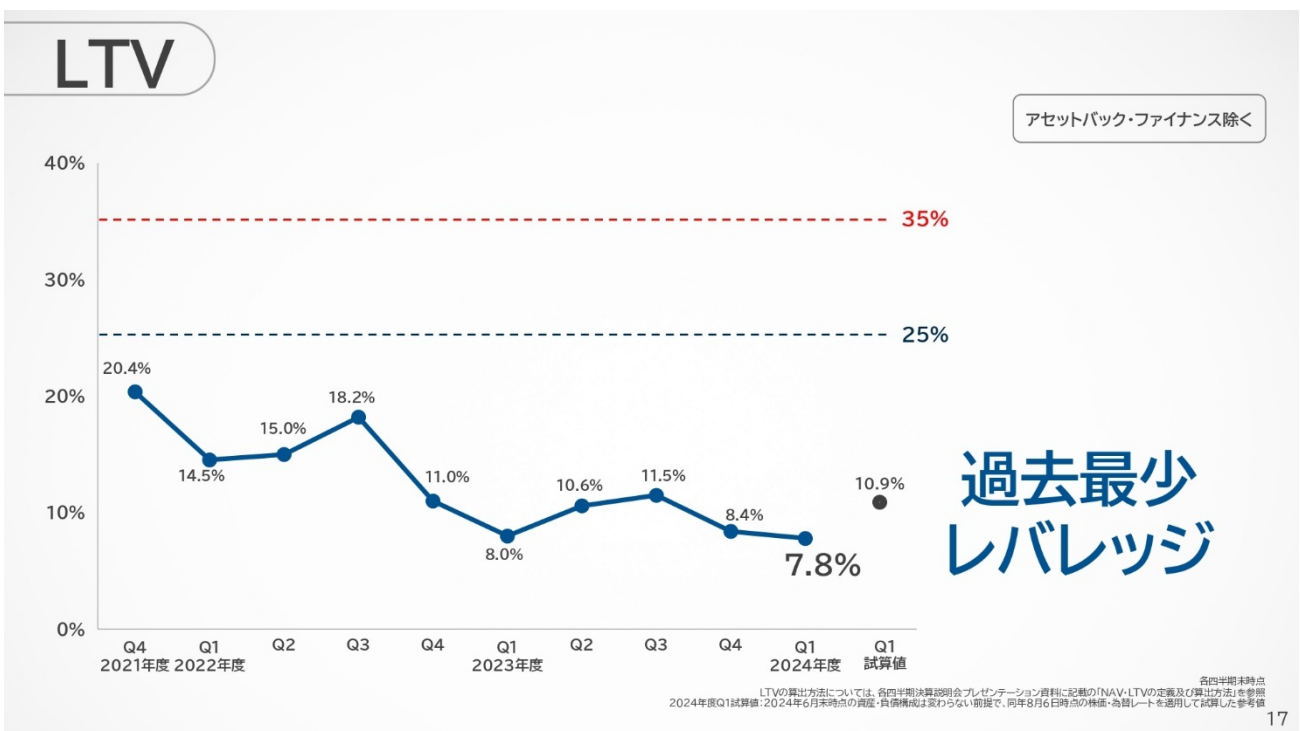
為替は3カ月で10円動いています。これも私たちの価値にどう影響を与えるかという、ポジティブかネガティブかといえ、実は円安はポジティブというのが結論になります。なぜかという

と、私たちの投資会社としてのベースになるアセットバリューはドルが中心ですから、この左にありますように、NAV への影響は 2.1 兆円のプラスとなる。

一方、会計の数字で表現しますと、資本の部はプラスですが、連結純利益には 4,000 億円のマイナスと出てきます。

ちなみに、161.07 円の右に薄い字で 144.98 円と書いてあるのは、昨日の為替です。1 カ月ちょっとで 15 円も円高になっているわけです。ただこれだけで見ると、例えば P/L 上でどのぐらいのインパクトがあるかという、10 円の円安で約 4,000 億円マイナスになっているわけです。逆に 15 円プラスになったら約 6,000 億円プラスという話になる。そんなイメージで、為替はあらゆるテーマに影響を与えています。

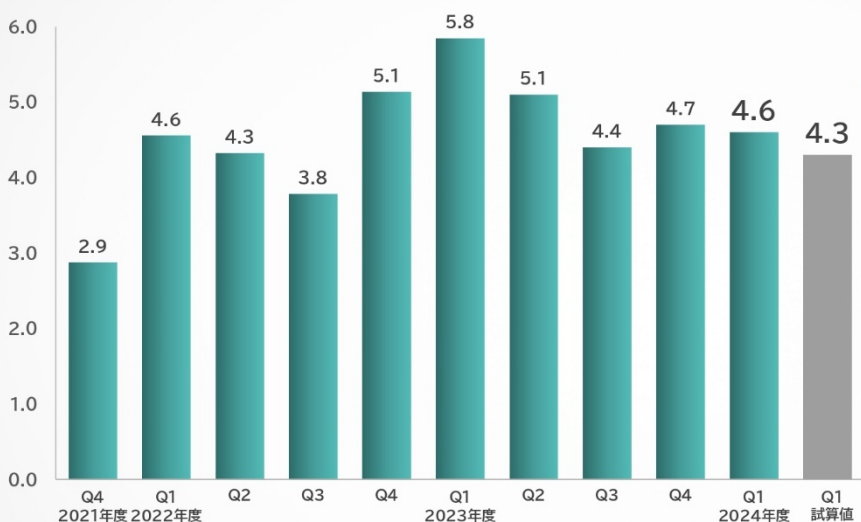
円高に動けば P/L はプラスになるけれど、一方で NAV にはマイナスに働くということでもあります。



LTV は過去最少の数字、すなわち最高の安全性ということです。ここまで安全だと、健全を通り越していますので、もっと仕事せなあかんということかもしれません。

手元流動性

(兆円)



高水準を維持

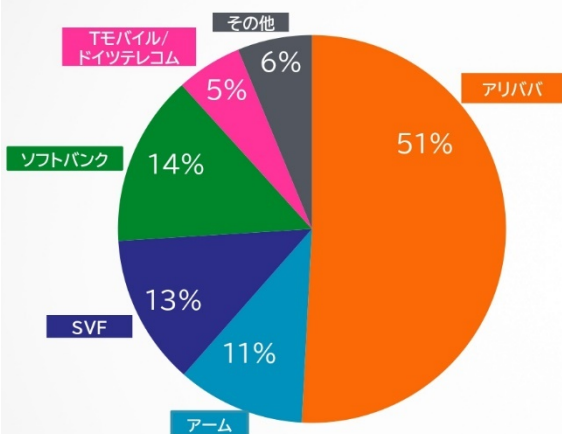
各四半期末時点
手元流動性=現金及び現金同等物+流動資産に含まれる短期投資+債券投資+コミットメントライン未使用枠、SBC単体ベース(SB Northstarを除く。ただし現金及び現金同等物並びに債券投資は含む。)
2024年度Q1試算値=6月末時点の外貨建て残高に2024年8月6日時点の為替レートを反映して試算した参考値

手元流動性は、従来とほぼ同レベル、約 4.3 兆円です。

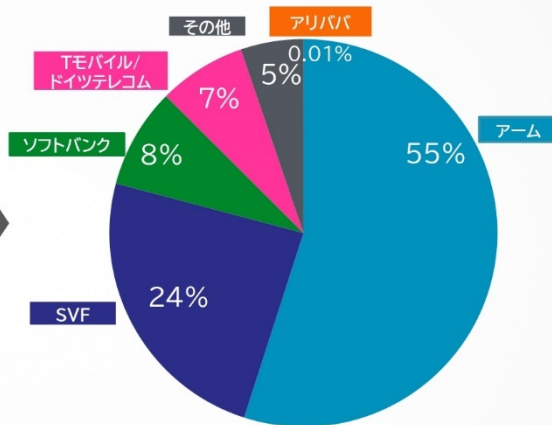
保有資産構成の変化

保有株式価値ベース
アセットバック・ファイナンス除く

2020年6月末



2024年6月末



各時点の保有株式価値の構成割合
保有株式価値の算出方法については、各四半期決算説明会プレゼンテーション資料に記載の「NAV-LTVの定義及び算出方法」を参照
SVF:SVF1/SVF2/LatAmファンドの合計

保有資産のバランス。

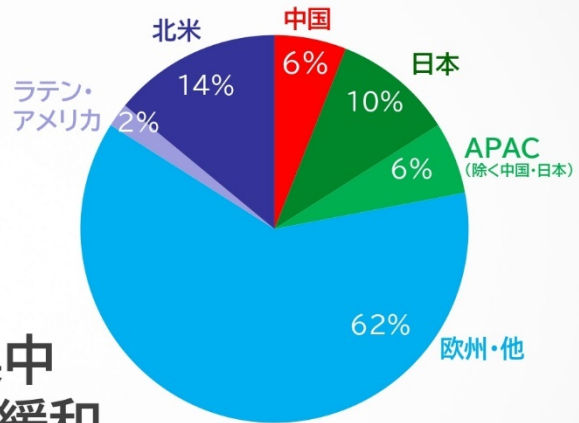
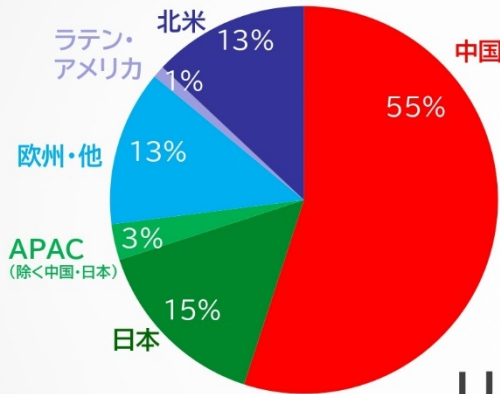
アリババを数年かけて経済的に売り切った現状は、右の図ということで、アリババが 50%強あった約 4 年前のポートフォリオから、アームが 50%強と、大きく様変わりをしている。これもすべて AI への構えということです。

地域構成の変化

保有株式価値ベース
アセットバック・ファイナンス除く

2020年6月末

2024年6月末



中国集中
リスクの緩和

各時点の保有株式価値を投資先の本社所在地に基づいて地域に分類した構成比
中国:アリババ、SVF1およびSVF2(中国相当)、その他の中国投資の会計
日本:ソフトバンク、SVF1およびSVF2(日本相当)、その他の日本投資の会計
APAC(除く中国・日本):SVF1およびSVF2(中国・日本を除くAPAC相当)、その他の中国・日本を除くAPAC投資の会計
欧州・他:アーム、ドイツテレコム、SVF1およびSVF2(欧州・他相当)、その他の欧州・他投資の会計
ラテン・アメリカ:LatAmファンド、SVF1(ラテンアメリカ相当)、その他のラテン・アメリカ投資の会計
北米:TMモバイル、SVF1およびSVF2(北米相当)、その他の北米投資の会計

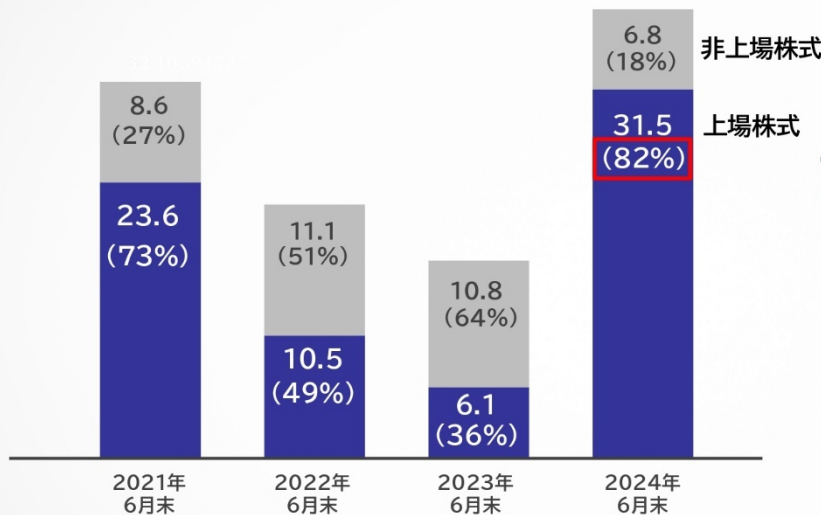
そして、地域構成。

まさに地政学リスクを会社としてどう取り組んでいくかというテーマです。4年前は、アリババを中心として、中国エリアでの投資が過半でしたが、現在はアームを中心として、欧州を中心としたエリアが60%というレベルです。中国集中リスクの緩和は実現できているということです。

保有株式価値：上場株比率の推移

保有株式価値ベース
アセットバック・ファイナンス除く

(兆円) ※()は合計に占める割合



アーム価値増加で
上場株式比率は
82%に

上場株比率:各期末の保有株式価値合計に占める上場株の割合。アリババ、アーム、ソフトバンク、TEモバイル、ドイツテレコム、SVF1、SVF2およびLatAmファンドが保有する上場株式、およびその他のうちの上場株式を含む。(ただし、SVF1、SVF2およびLatAmファンドはSBGの持分のみを含む)

私たちのポートフォリオの流動性はどうか。

流動性というものを保有株式の上場株式比率という指標で見ただけであれば、この6月末は8割を超える上場株比率で、この観点からまったく問題がないと思います。

毎年上場株比率がどんどん下がっていた。どんどん悪くなっていたのか、いやいや、そんなことはないのです。これはアリババ株をどんどん売って現金にしていたわけです。前回も言ったので、あまり何度も言いませんが、現金は現金で安全なのです。ただ、保有株式の非上場、上場の比率というものを気にする投資家の皆さま、格付けの皆さまなどには、現状の数字は非常に満足いただけるのではないかと思います。



ここからは攻めの部分です。

SBGとして現状はどうなっているか。6月の株主総会で孫自ら皆さまにお話をした骨子が、一番の戦略的テーマだと思います。あらためて確認したいのは、彼だから言えるコメントですが、人類の進化に貢献と、これは多分僕が言っても全然刺さらないと思いますが、究極、グループとしてはそこを見ているわけです。そのためにAIがあるわけで、当然ASIもそのためにあるわけだというのが、私たちが見ている仮説です。

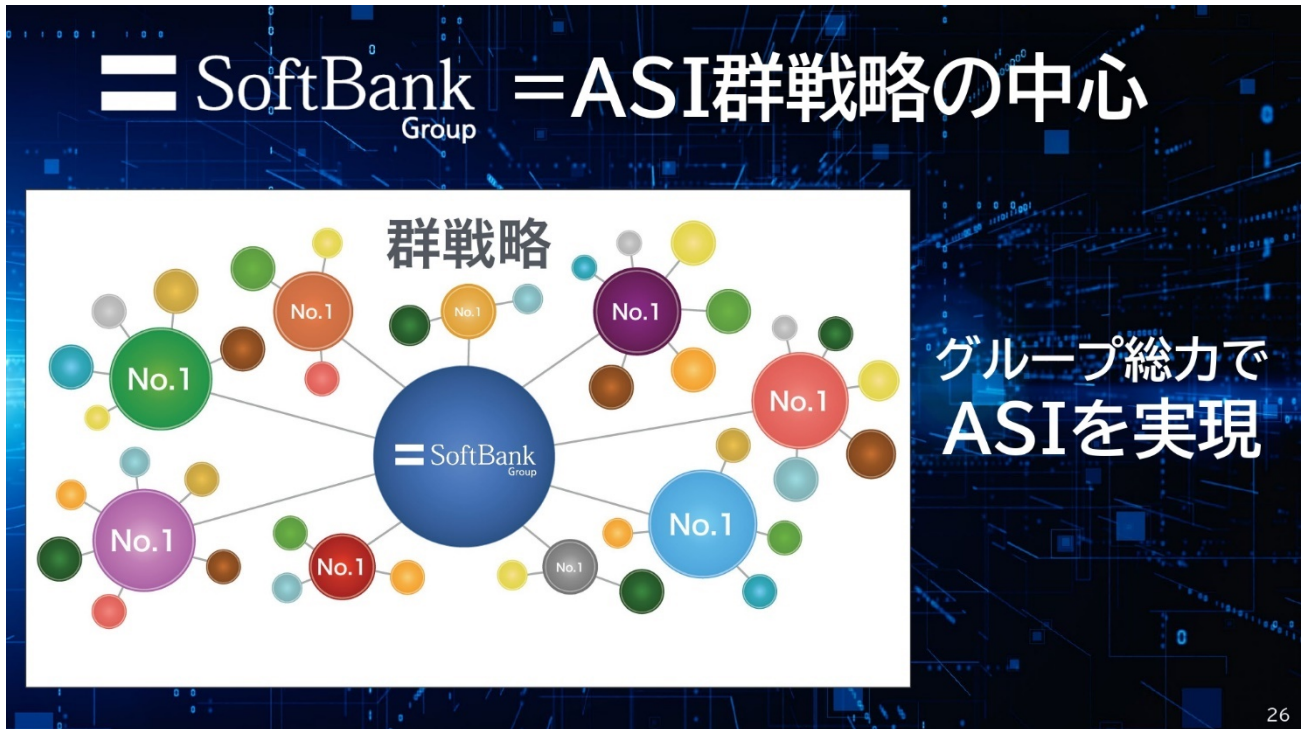


そして、これを実現するためにグループの総力を挙げていきたい。

総力を挙げる中で、特に三つのエリア、AIのチップはさらに進化していきます。当然、アームがリードしていきます。そして、データセンターもAI発展のために不可欠です。そして、AIはどのような形でサービスに現れてくるか。きっと一番分かりやすいサービスはロボットかもしれない。もちろん技術でもあるけれど、サービスでもある。こういった分野をグループとして特に推進してまいります。



冒頭で申し上げたとおり、SBG というのは、恐らくユニークでして、類似会社が本当に存在しないのです。これは投資家の皆さまと対話する中でもよくテーマになります。SBG は、世の中の他の会社だったらどこと類似する、どこと比較すればいいのですかという質問をいただきますが、申し訳ないのですが、私たちもその答えがない。私たちは私たちのやり方で、SBG というビジネスモデルを進めていくしかないだろうと思います。



これまで群戦略というテーマは、長年にわたって皆さまに説明してきました。これは今も、このグループ戦略が私たちに最も合った戦略です。資本構造だけのグループではない。やはりビジネスの関係だったり、それからお客さまを通じた仲間意識だったり、同じ方向を見ている同志だったり、そういった多岐にわたるリレーションを群戦略の中で取り込んでいって、ソフトバンクグループというのはこういうものだよねと、有機的な結合の中で生まれているグループ。こういったものをこれからもさらに追求していきたいと思います。

Graphcore

2024年7月11日付 子会社化

AIや機械学習に特化した
チップの設計、開発、販売までを行うスペシャリスト

CEO	Nigel Toon
設立	2016年
本社	英国、ブリストル
事業内容	AIチップを設計、開発、販売



ASIの実現に向け、Graphcoreとのコラボレーションを期待

今の四半期で、私たちが将来の ASI をにらんで投資を進めてきた個別案件には、グラフコアへの投資があります。

この会社は、AI や機械学習などに特化したチップの開発から販売までを行うスペシャリスト集団で、特にこの分野におけるエンジニア、技術者、人的資源が非常に豊富な会社だと思っています。私たちはこういう方々と同じグループで仕事できることは、お互いに大変プラスになるだろうと思っています。さまざまなコラボレーションをこれから深めていきたいと思っています。

SB Energy Global

米国の再生可能エネルギープラットフォーム
AIを支える太陽光発電など

太陽光発電所

稼働中

2GW

建設中

1GW

+拡大中

次に、SB Energy Global。

主にアメリカにおいて、再生可能エネルギーのビジネスを展開していきまして、すでに稼働中のサイトで2GW、建設中が1GW、さらに拡大中です。今は太陽光発電ですが、それ以外のさまざまな再生可能エネルギーを追求していきたいと思っています。

昨年、日本のエネルギービジネスは手放していますが、アメリカにおいてはむしろ強化していきたいと考えています。

ソフトバンク 次世代社会インフラの構築

SoftBank

AI計算基盤を分散配置

Regional Brain
中規模データセンター

AI計算基盤

北海道データセンター
2026年度第1次開業予定

Brain DataCenter
大規模データセンター

HPC・AI計算基盤 Data Lake 量子コンピュータ

シャープ堺工場を活用したAIデータセンター構築について発表
(2024年6月7日付:SBKKリリース)

(出所) SBKK
HPC:ハイパフォーマンスコンピューティング 29

次に、この3カ月のデータセンターに関する進捗は、日本国内におけるソフトバンク株式会社（以下「SBKK」）の取り組みが皆さまに非常に分かりやすいテーマだと思います。

日本国内のデータセンターは、通信会社のSBKKが中心となって取り組んでいます。すでに発表している案件としては、北海道のデータセンターやシャープの堺工場を活用したデータセンターの構築など、こういったものを活用しながら、日本各地、非常に主要な重点地域におけるAI計算基盤を上手に分散配置しています。日本のデータセンタービジネス、やはりリードしていきたい、また、技術やビジネスの知見を高めていきたいと考えています。

ソフトバンクグループのロボット事業

ロボットインテグレーター

ロボットを生かしたい開発メーカーと導入したいユーザーを最適なカタチで結びつける



30

もう一つ、ロボットです。

これまでもいくつかの投資案件については決算説明の場でも個別に説明してきましたが、振り返ると10年前、2014年にご存じペッパー君がスタートしまして、こんなところにもいたかと僕も今でもびっくりすることがありますが、ペッパー君は今でも結構頑張っています。

私たちがAIをさらに発展させることで、実はこのペッパー君もさらに進化していこうという期待もありますが、それ以外のロボティクスが手掛けてきている分野というのは、清掃ロボットや、配膳運搬ロボットなど、これは各地で皆さまも目にする機会が増えてきたのではないのでしょうか。私も最近よく、ゴルフ場で動いているロボットを見るとソフトバンクと書いてあったり、レストランでの配膳ロボットもこれもうちがやっているんだと。

目にする機会が多くなったということは非常にいいことです。実際にシェアの数字だとかは、またあらためて説明できるタイミングで申し上げたいと思いますが、私たちはかなりのシェアを持っています。

ソフトバンクグループのロボット事業

自動フォークリフト



BALYO

ケース品自動倉庫



symbotic GB

ピース品自動倉庫



AutoStore

ピース品ピッキング



BG BERKSHIRE GREY

グループ投資先との協業により
あらゆる物流業務へ最適なソリューションを開発

31

そして、こういった知見を積み重ねながら、特に物流系、倉庫の自動化、それからAI化、さらにその先には自動倉庫といった分野まで展開していきたい。それらを含めてソフトバンクグループのロボットグループという見方で、将来的にひとくくりしていきたいと思っています。

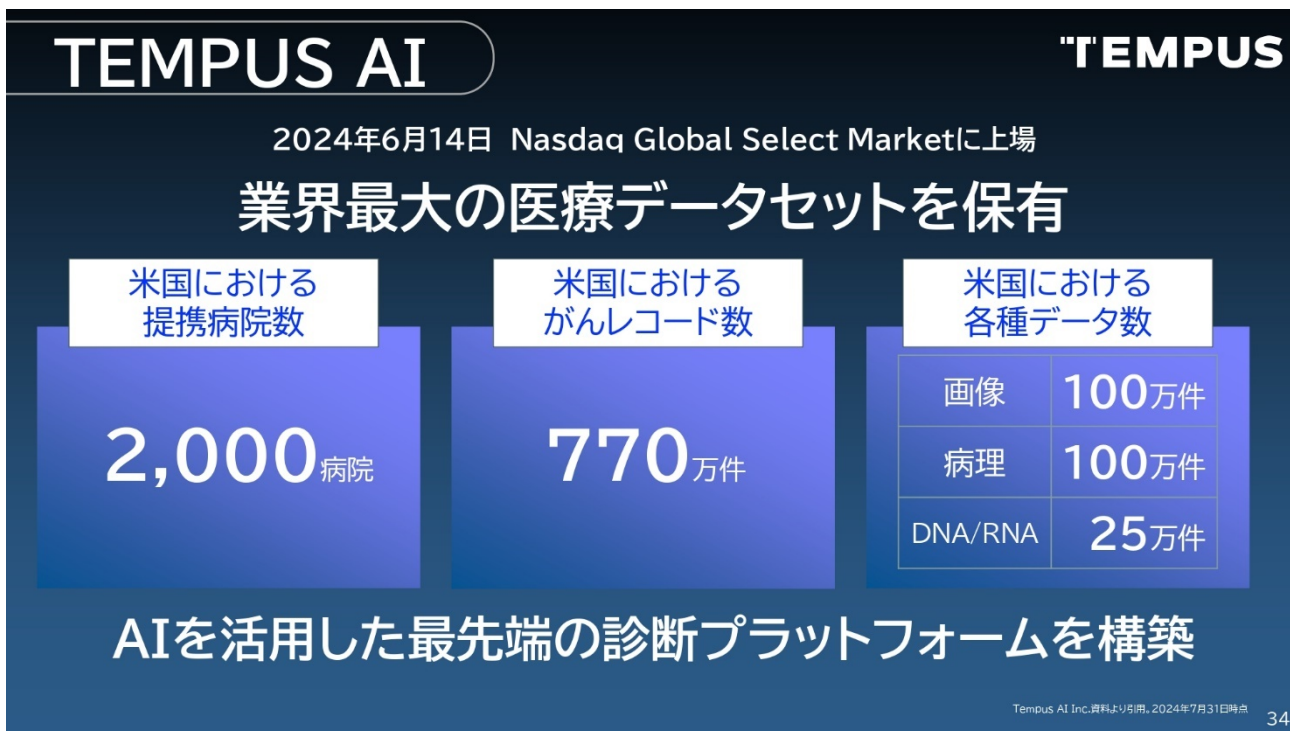
具体的な投資先の事例です。バリオ、シンボティック、それからシンボティックとのJVのグリーンボックス、オートストアやバークシャーグレイなど、あらゆる物流業務や最適なソリューションを開発、提携、そして成長させていきたいと考えています。



"TEMPUS

32

テンパス AI と、先ごろ孫が自ら記者発表させていただきました同社との JV についてもう少しお話をしたいと思います。



チャートでご覧いただいているように、テンパス AI は米国において 2,000 の病院と提携していて、すでに手にしているがんのレコード数は 770 万件にのぼります。より詳しい画像データや病理データ、DNA/RNA データなども保有していて、もちろんこれらをさらに拡大していきます。

こういったデータを基に、AI を活用した最先端の診断プラットフォームを構築できている会社ですが、まだまだ発展途上です。これから彼らがもっと活躍しなければいけない医療の領域というのは非常に広い分野が残されていると思います。

3つのサービスを提供



遺伝子検査



医療データ
収集・解析



AIによる
治療選択肢の提案

Tempus AI Inc. 資料より引用

35

サービスとしては、遺伝子検査、それから医療データの収集と解析、そしてAIによる治療選択肢の提案などを次々と現場に投入していきたいと思っています。また医療の現場は大変なハードワークです。このハードワークのそれなりの部分というのは、恐らく時間をもっと短縮することができるだろう。それに、このテンパスAIという会社のビジネスが役に立つことも十分あるだろうと。その観点も非常に大事だと思っています。

SB TEMPUS



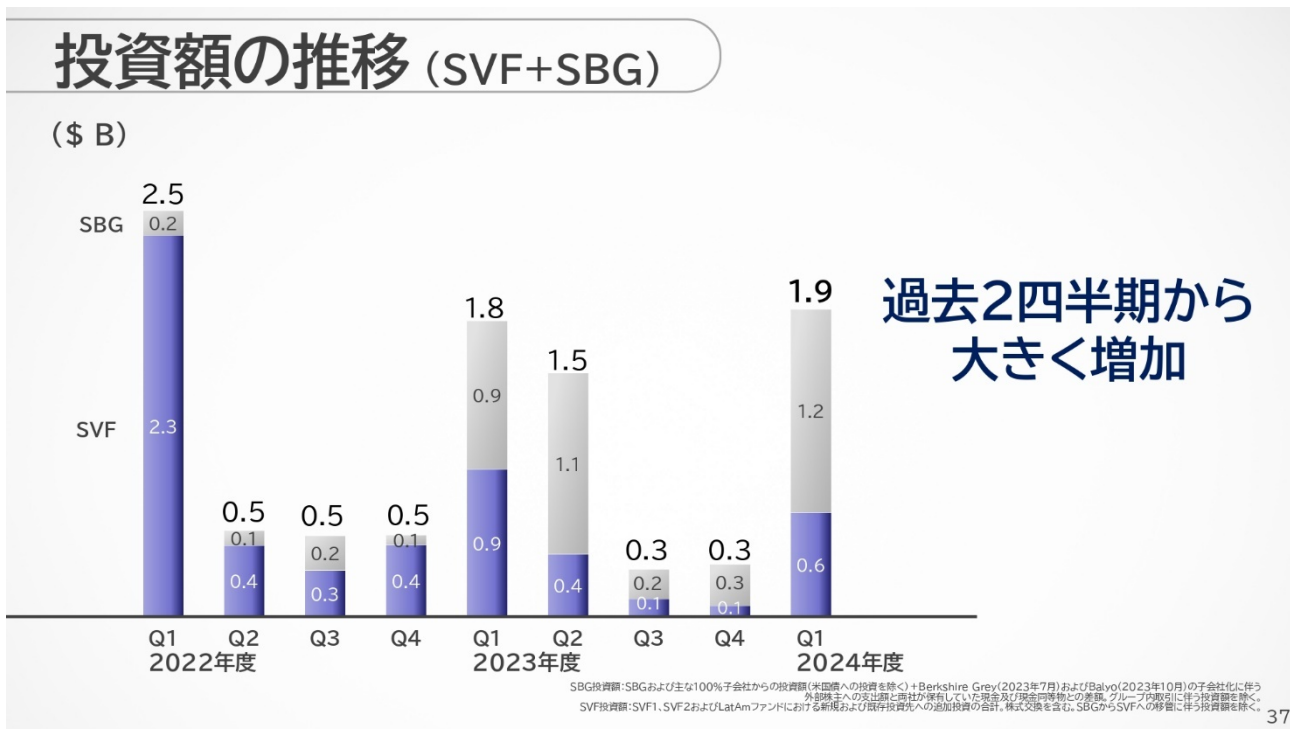
医療データとAIの活用により日本の医療のさらなる進歩に貢献

株式会社SB TEMPUSの詳細は、同社の2024年8月1日付プレスリリースをご参照ください。

36

そして、SB テンパスという合併会社を設立しています。

私たち SBG はテンパス AI に出資をしながら、さらに SBG とテンパス AI はそれぞれ出資をして、SB テンパスを設立していきまして、8 月から本格稼働しました。日本において、テンパス AI のビジネスモデルをしっかり展開していきたいと思えます。



ここまで、少し総論と具体論を説明しましたが、数字で見ただけだと、この第1四半期の投資額は約19億米ドルと、過去2四半期に比べると大きく増加しています。

ヒストリーを見ていただくと、だいたい第1四半期は投資が多いです。これはなぜかという、何となくSBGっぽくないですが、いろいろな契約事項が3月までにどんどん前倒しで行われるものが多くて、それが実際に投資の数字として出てくるのが4月以降になるものが多いというところはあるかと思えます。

いずれにしても、非常に順調な投資を積み上げているところをご理解いただけたらと思います。

投資の売却・資金化

資本のリサイクルを継続

FY2024Q1 投資の売却:3,711億円

(主な売却銘柄)

Tモバイル株式: \$670Mでドイツテレコムへ売却
(6.7百万株) ドイツテレコムによるTモバイル株式購入オプションの一部行使

Fortress株式: Mubadalaグループへ売却 (2024年5月完了)
(全持分)

SVF投資先: SenseTime、Paytmを含む複数銘柄の株式などを売却

FY2024Q1 主な投資の売却:当社連結キャッシュ・フロー計算書における投資の売却または償還による収入のうちSBGおよび主な100%子会社による投資の売却額(米監査への投資を除く)、子会社の支配喪失による収入およびSVFによる投資の売却による収入の合計額
Tモバイル株式:未行使分は2024年6月22日に行使期限が到来し消滅(2024年6月末の当社保有株式数: 85.4百万株)

38

一方で、調達、資産のリサイクルという観点からしますと、資産をどのように資金化してきたかということです。Tモバイルについては保有する一部(670万株)を6億7,000万米ドルでドイツテレコムへ売却することで資金を手にしています。

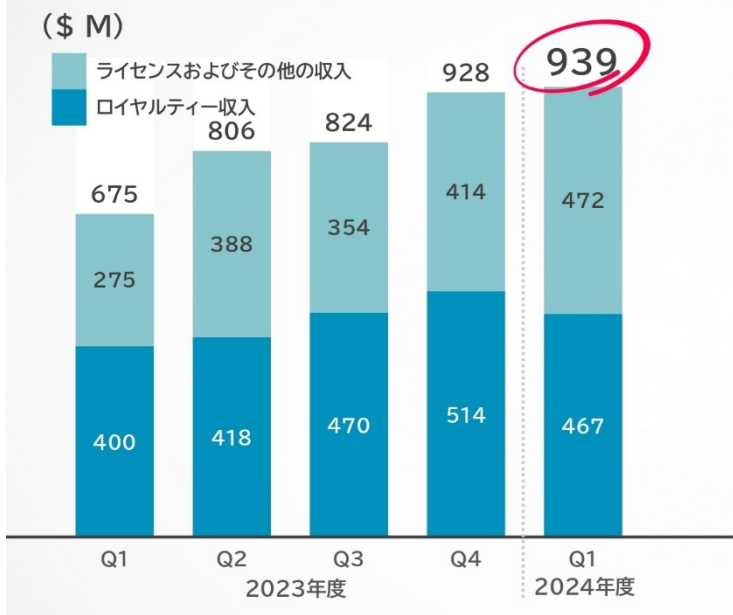
また、フォートレスの株式は、全持分を中東のムバダラグループに売却しました。

また、SVFもセンスタイムやペイティーエムなど上場投資先を中心に売却しながら資金化を進めてきました。

投資の売却総額は4,000億円弱というのが、この第1四半期の実績です。

四半期売上高 (米国会計基準)

arm



引き続き過去最高

アナリスト
コンセンサスの
\$903Mを上回る

(出所) Arm Investor Relations (https://investors.arm.com/)を参照
「ライセンスおよびその他の収入」は「ロイヤルティ収入」以外の収入を指す。
アナリストコンセンサス: FactSetより、2024年7月29日時点

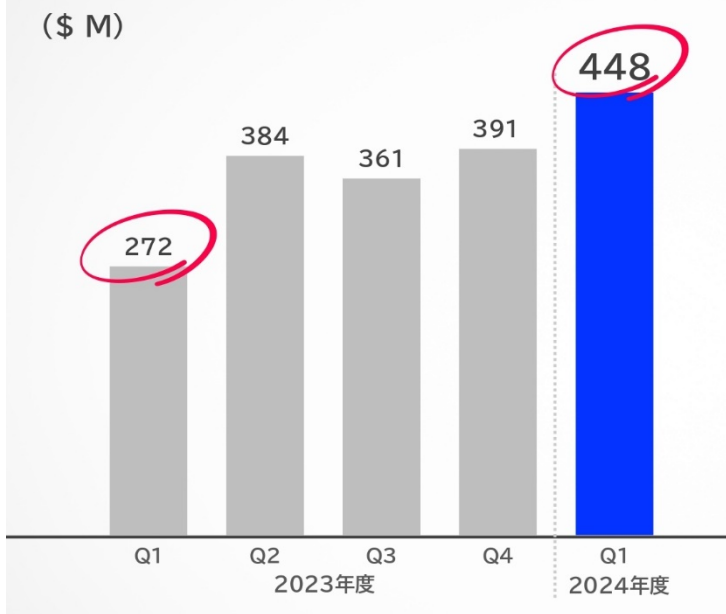
40

次に、アームです。

まず、売上高は引き続き過去最高です。これはアナリストコンセンサスの9億300万米ドルを上回っています。

四半期調整後営業利益 (米国会計基準)

arm



前年同期比
65%増

(出所) Arm Investor Relations (https://investors.arm.com/)を参照
調整後営業利益は「Non-GAAP Operating Income」を示す。GAAP基準数値とNon-GAAP数値間の
差異については、アームの「FYE25-Q1 Shareholder Letter」を参照
詳細は、Arm Investor Relations (https://investors.arm.com/)を参照

41

また、調整後営業利益は前年同期比の65%増ということで、4億4,800万米ドルの計上ができています。

業績ガイダンス (米国会計基準)



	2024年度Q2	2024年度
売上高 前年同期比	\$780M ~ \$830M (-3% ~ +3%)	\$3,800M ~ \$4,100M (+18% ~ +27%)
調整後営業費用	\$500M程度	\$2,050M程度
調整後EPS (完全希薄化後)	\$0.23 ~ \$0.27	\$1.45 ~ \$1.65

(出所) Arm
調整後営業費用は「Non-GAAP operating expense」、調整後EPS(完全希薄化後)は「Non-GAAP fully diluted earnings per share」を示す。
詳細は、Arm Investor Relations (<https://investors.arm.com/>)を参照

42

アームは先日、決算発表に伴ってガイダンスの発表もしています。この第2四半期の売上高のガイダンスは7億8,000万米ドルから8億3,000万米ドルレベルと、また2024年通期のガイダンスは保守的に、前回発表から据え置きということで発表しています。

私たちはこのアームについて、現在非常に順調な成長を遂げているだけでなく、どのように成長させられるか、アームの成長戦略を、これもグループ全体の成長戦略の中心と位置付けながら、さまざまなスタディーを行っているところです。

そういったものはまだまだ彼らのガイダンスに織り込めないものが多くありまして、こういったものをこれから、将来一つ一つ、具体的なキャッシュフローを生み出すビジネスとしてガイダンスに取り込んでいく、そういったことができるといいなと。また、アームという会社は、そういったときにその時点、時点で再評価されていくのだろうなと考えています。

Microsoft:高いAI実行性能を持つ Copilot+ PCにアームベースチップ搭載

Copilot+ PC (2024年5月発表)



- ✓ AI向けに設計されたPC
- ✓ ライブキャプション翻訳や画像生成など、ローカルで実行可能なAI機能を提供
- ✓ 一回の充電で最大22時間のビデオ再生が可能。長時間の使用に対応

(出所) マイクロソフトのプレスリリース

43

この四半期のアームの実績を、あと一つ、二つご紹介します。

まず、マイクロソフト製品へのアームベースチップの搭載。5月にマイクロソフトのAI向けに設計されたパソコンにもベースのチップが搭載されています。

Armv9 の寄与

約 **25** %

ロイヤルティ収入全体に占める
v9のロイヤルティ収入の割合
(前四半期は約20%)

v8と比較してチップ当たりの
ロイヤルティ単価は約2倍

拡大を続ける コンピュータエコシステム

約 **2,000** 万人

アームベースの製品の
ソフトウェア開発に携わる
開発者の数

データセンター向け チップへの採用

主要なハイパースケーラー

10 社

Google ORACLE aws
Microsoft Alibaba 他

アームベースチップを採用する
主要なハイパースケーラー

アームのさらなる長期的な成長を確信

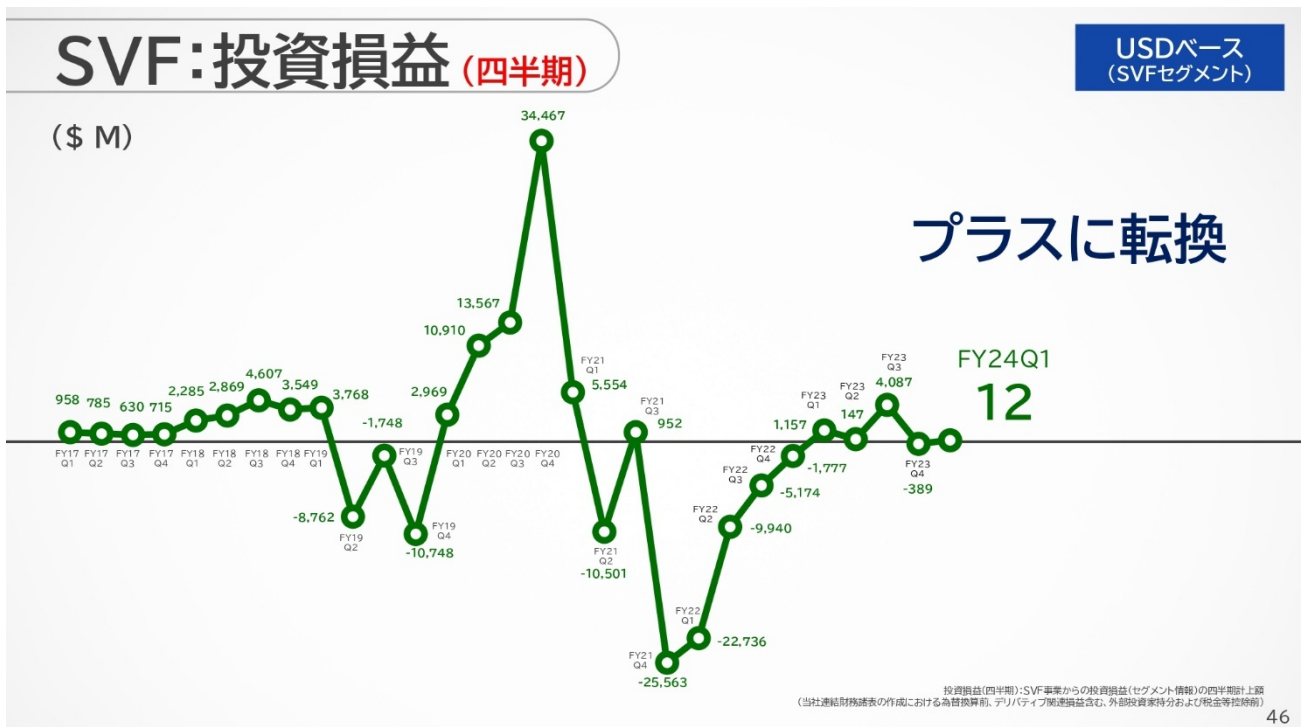
コンピュータエコシステム:アームベース製品のソフトウェア開発に携わる開発者およびエンジニア
約2,000万人:アンドロイドおよびiOSのアプリケーション開発に携わる開発者、データセンターおよびPCのソフトウェア開発に携わる開発者、組み込み市場のソフトウェア開発に携わる開発者の数などの総数。データは、
Evans Data Corporation (グローバルなソフトウェア開発者数の調査に強みを持つ市場調査会社)に基づく。

44

また、チャートの左にあります、Armv9 の寄与です。ロイヤルティ収入というのは、将来にとって非常に安定的な収入になります。この寄与度は、Armv9 のロイヤルティ収入全体への寄与が25%ということで、前四半期よりも5%増加しています。結構大きな増加だと思えます。

また、アームベースの製品のソフトウェア開発に携わる開発者、これまでは1,500万人と開示していましたが、今は2,000万人とさらに多くの世界中のエンジニアが、このアームベースの製品を手掛けてくれている。

また一番右ですが、主要なハイパースケーラー、いわゆるIT系の超メガカンパニーです。このハイパースケーラーの企業群は、すでにGoogleやOracle、Microsoftなどの10社が各社のデータセンター向けにアームベースチップを採用しています。これから引き続きアームのさらなる成長を確信しています。



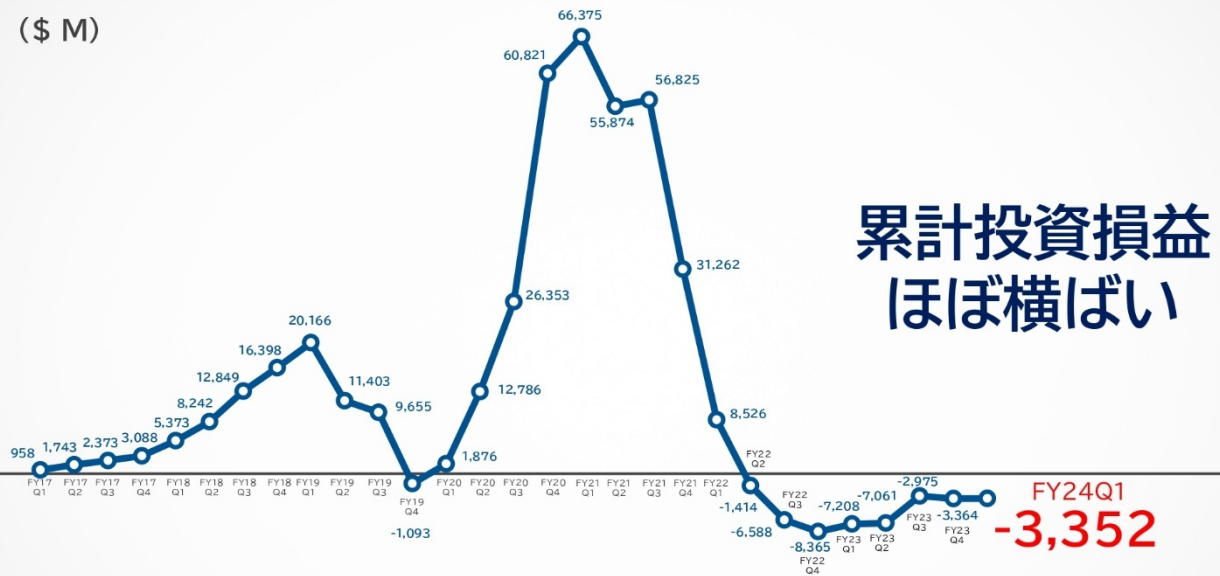
次に SVF です。

まず投資損益の四半期ごとの数字はプラスに転換をしています。

SVF:投資損益 (累計)

USDベース
(SVFセグメント)

(\$ M)



累計投資損益
ほぼ横ばい

投資損益(累計):SVF事業からの投資損益(セグメント情報)の2017年度Q1からの累計計上額
(当社連結財務諸表の作成における為替換算前、デリバティブ関連損益含む、外部投資家持分および税金等控除前)

累積の投資損益も上がり下がりではありますが、ほぼ横ばい、ここから回復への道のりを歩いていきたいと思えます。

SVF:投資損益 (2024年度Q1)

USDベース
(SVFセグメント)

合計	SVF1	SVF2	LatAmファンド
+\$12M (+19億円)	+\$2,827M	-\$2,643M	-\$83M
	その他	-\$89M	

投資損益:SVF事業からの投資損益(セグメント情報)
(当社連結財務諸表の作成における為替換算前、デリバティブ関連損益含む、外部投資家持分および税金等控除前)

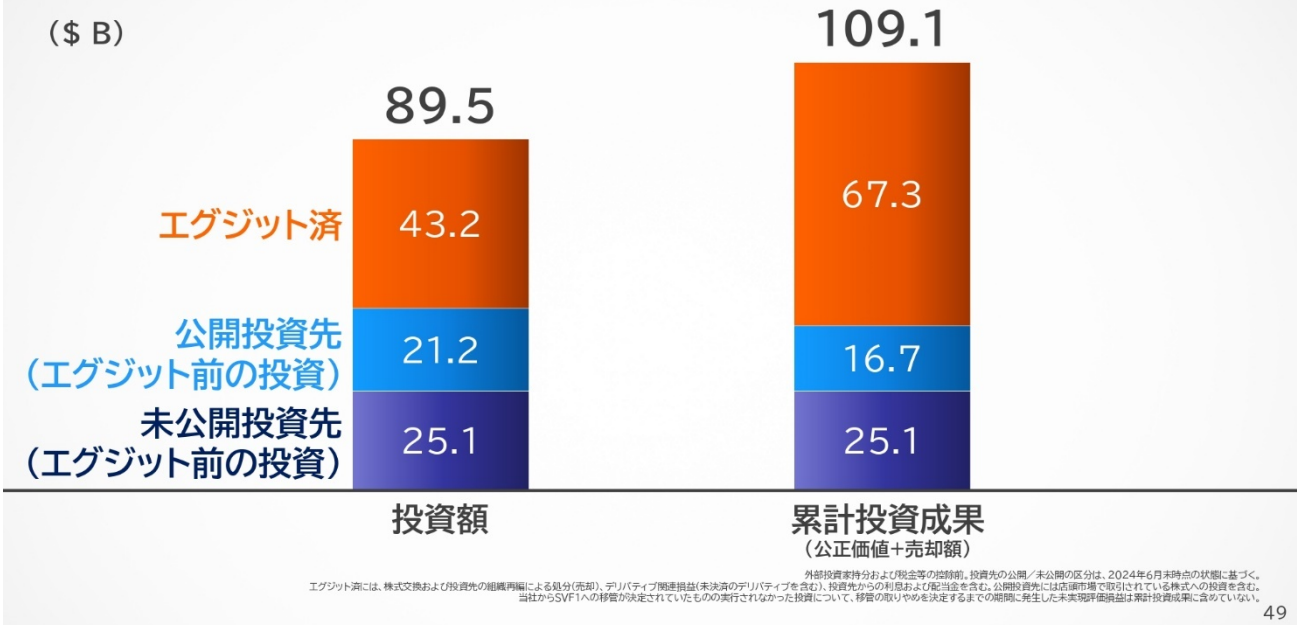
SVF1 と SVF2 を分けて考えますと、SVF1 に関しては、この四半期の実績は非常に大きかったです。28 億米ドルの増加です。

一方、SVF2 は、まだ投資のタイミングからの時間が経っていないことと、投資時の投資簿価が高いものが多いという両方が、損益がなかなか改善しない理由になります。SVF1 も時間をかけなが

ら回復してきています。SVF2 も、しっかりモニタリングしながら、また新規投資も織り交ぜながら、ファンドのパフォーマンスをしっかり改善させていきたいと思っています。

SVF1: 累計投資成果 (2024年6月末時点)

(\$ B)

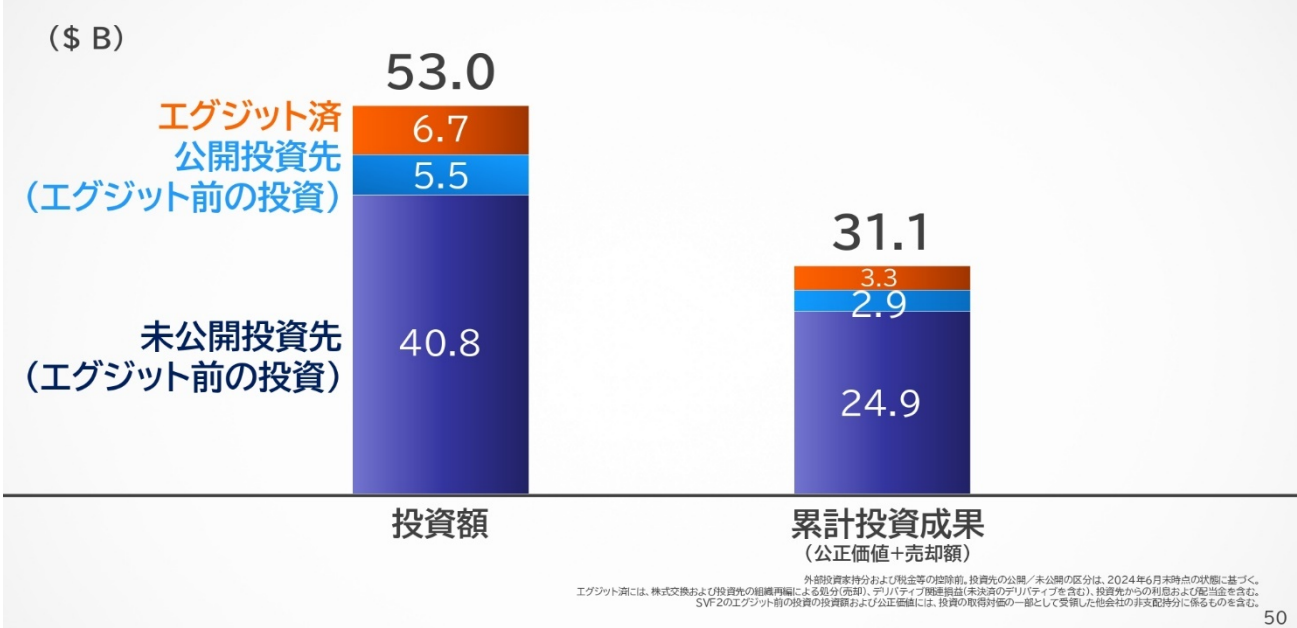


49

SVF1 の累積投資成果は、895 億米ドルの投資額に対して、現在 1,091 億米ドルまでパフォーマンスを改善しています。

SVF2: 累計投資成果 (2024年6月末時点)

(\$ B)



50

一方、SVF2 につきましては、530 億米ドルの投資元本に対し、現在の評価は 310 億米ドル。このギャップをしっかり埋めていきたいと思っています。

株式公開実績と今後のパイプライン

将来の株式公開に向けた強固なパイプラインを確保

株式公開実績(活動開始来累計)

51件

2024年度Q1における新規株式公開

XtalPi

市場: 香港証券取引所

株式公開日: 2024年6月13日

グロスMOIC: 1.5倍

レイトステージ投資先の公正価値合計 **\$35B**

主なレイトステージ投資先

SVF1

ByteDance

Fanatics

firstcry.com

OLA

SVF2 & LatAmファンド

OLA ELECTRIC

PayPay

Swiggy

yanolja

KAVAK

QuintoAndar

Rappi

wellhub

2024年6月9日時点、(左) SVF1およびSVF2の株式公開実績(活動開始来累計)は51件、(右) SVF2およびLatAmファンドの公正価値合計は\$35Bです。本スライドに記載の投資先は、特定の投資先または証券の推薦として解釈されるべきではなく、将来行われる投資が、本ファンドに記載の投資先を最終的にサポートするかどうかを決定するものではありません。本スライドに記載の投資先は、特定の投資先または証券の推薦として解釈されるべきではなく、将来行われる投資が、本ファンドに記載の投資先を最終的にサポートするかどうかを決定するものではありません。本スライドに記載の投資先は、特定の投資先または証券の推薦として解釈されるべきではなく、将来行われる投資が、本ファンドに記載の投資先を最終的にサポートするかどうかを決定するものではありません。

SVF 投資先の状況ですが、この四半期の IPO 実績は 1 社、クリスタルパイという会社が上場していますが、それ以外にも上場の可能性の高いパイプラインが右の各社、主にレイトステージ中心にこういった銘柄があります。時間をかけながら、しっかりした IPO を目指していただきたいと考えています。

SVF2:過去12カ月間の新規投資

優良案件発掘に注力

2024年度Q1

Tractable
AIを活用した
画像認識を通じて
保険金請求業務を
デジタル化

CATO
企業のネットワーク
管理およびセキュリ
ティ業務を効率化

TravelPerk
AIを活用し、中小
企業の出張および
関連業務を効率化

Metsera
次世代医薬品の開発
を加速させ、肥満や
代謝性疾患の
治療に貢献

WIZ

クラウド環境下で
構築・運用される
あらゆるシステムの
セキュリティを確保

perplexity
インターネット上の
情報を用いて正確な
回答を会話形式で
提供する生成AI搭載
検索エンジンを、
大規模言語モデルで
構築

AlphaSense
AIを活用した
市場および業界分析
プラットフォームを
提供

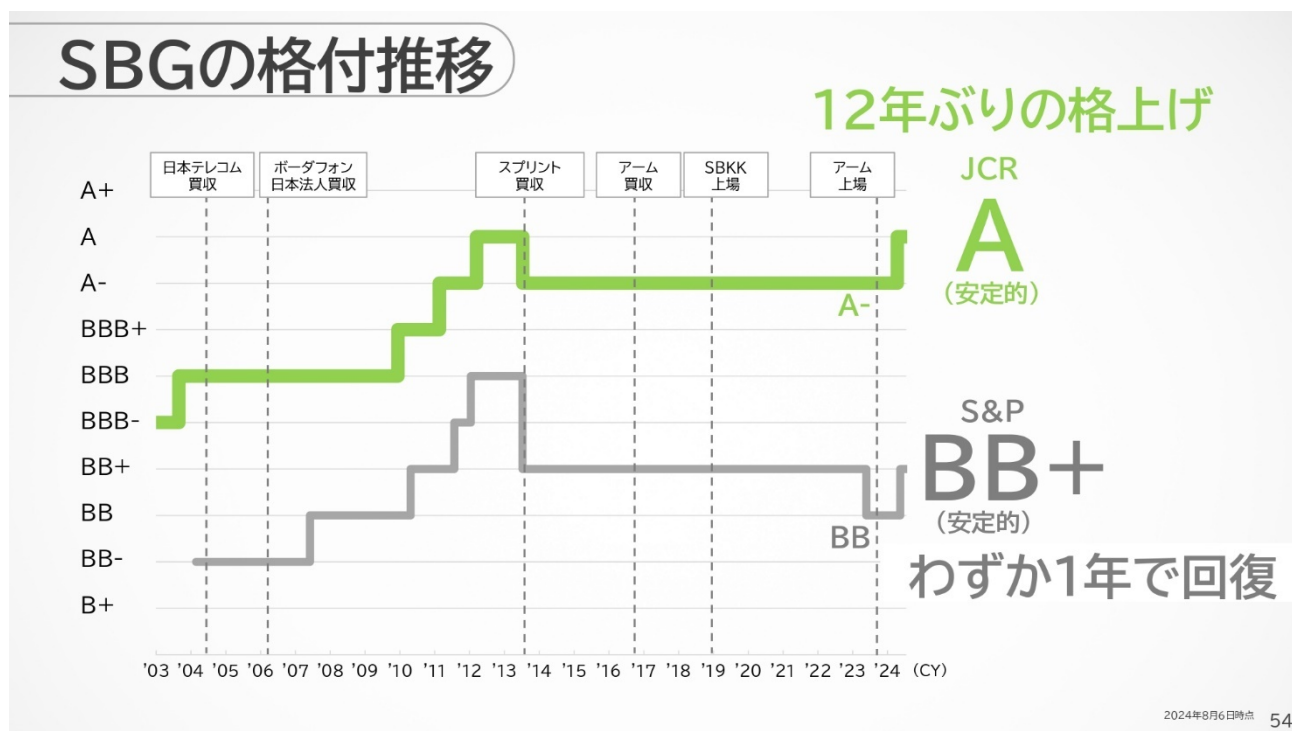
2023年

2024年

本スライドに記載の情報は、SVF1、SVF2およびLatAmファンドについてのみ提供されています。これらの情報は、あくまで参考情報として提供されており、投資に関する最終的な決定は、投資家ご自身の判断に基づいて行われるべきです。本スライドに記載の投資先は、特定の投資先または証券の推薦として解釈されるべきではなく、将来行われる投資が、本ファンドに記載の投資先を最終的にサポートするかどうかを決定するものではありません。

SVF が最近どんな投資をやっているかというご質問も多いです。やはり 3 年前、2 年前の非常に厳しい状況から、昨年、それから今年、投資を再開しました。ただし、その調査と投資委員会におけ

る議論というのは、できるだけ慎重に、保守的に、しっかり慎重に見極めて投資をしていこうということ選ばれたのがこれらの銘柄です。

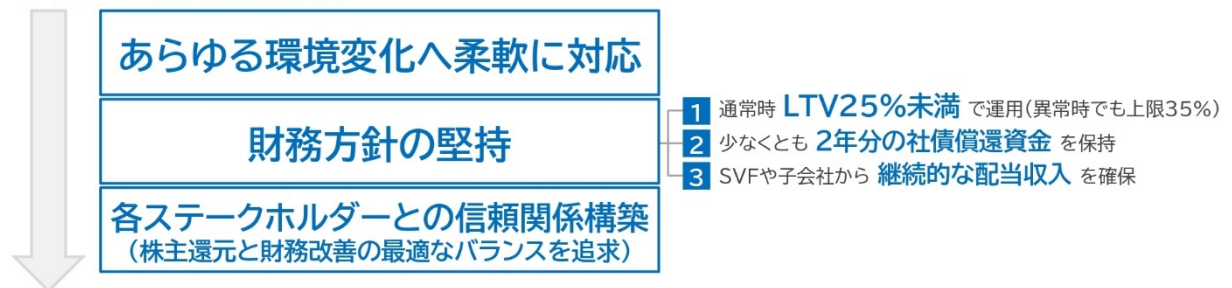


最後に財務戦略です。

格付会社では、時間もかかったと思いますが、私たちへの見方を非常にポジティブに変えてきています。JCRは12年ぶりに格上げしました。また、S&Pについては、これまでこの場でさまざまに申し上げてきましたが、1年前に彼らが、主に上場株比率を主な理由にいったんダウングレードしたことがありましたが、1年で回復を判断してくれました。

2024年度の財務戦略

不変の財務原則



2024年度 財務戦略

- ・ 潤沢な手元流動性の有効活用
- ・ 戦略投資を支えるノンリコース調達 of 積極活用
- ・ ポートフォリオのモニタリング強化→回収と再投資

55

さまざまな環境変化がありますが、私たちの財務原則は不変です。

鉄板のトッププライオリティーとして財務ポリシーを守ること。守ることで投資の金額も定まりま
すし、さまざまな戦略も定まっていくということです。

そしてさらに、やはり株式市場、それからクレジット市場、ホールセール、リテール、あらゆる面
で各ステークホルダーの皆さまとの信頼関係の構築は、今まで以上にしっかり取り組んでいき
たいと思いますし、そのための IR 活動はこれからも徹底的に進めていきます。2024 年度の財務戦略に
変更はありません。

自己株式の取得枠の設定

総額：**5,000**億円
(上限)

取得期間:2024年8月8日~2025年8月7日

詳細は、2024年8月7日付プレスリリース「自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ」を参照

56

今日、自己株式の取得について発表しました。

この環境下、やはりいくつかの論点があります。課題がありますが、私たちの取締役会でもさまざまな議論を尽くし、自社株取得のタイミングとして、私たちは今がベストなタイミングと判断をしています。

今回は5,000億円の自社株買いを1年間かけて実行していきます。どういう形で、どういうふうに買っていくかという柔軟性は、私どもにお任せいただければと思っています。

2024年度Q1まとめ

- 1 純損失は1,743億円となるも、5,597億円の投資利益を計上
- 2 NAVは最高値を更新
- 3 SBGの使命はASIの実現。そのためのAI投資戦略を推進
- 4 アームの業績は引き続き順調
- 5 SVFのパフォーマンスはプラスに転換
- 6 低いLTV、潤沢な現金を維持。AI投資に備えた財務余力を確保

57

まとめは、もう一度このページでご覧いただくとおりです。

この1から6までの項目について、お話を申し上げました。

環境は厳しいですが、私たちの財務体制は盤石です。



そして、従前から私たちが掲げている ASI、このステージを少しでも早く世の中に提供できるようなお手伝いを、うちのグループがしたい。お手伝いをしながら、リードもしたい。ASI 実現に邁進してまいりたいと思います。

今日の決算説明は以上で終わります。

ありがとうございます。